

学科 学年	M1 E1 S1	科目 分類	地球環境学概論 Introduction to Earth Environmental Science	講義  必修	17前 期又は 後期  1単位	学習教育 目標  A, D	担当	大久保 清美  OHKUBO Kiyomi
概 要	<p>地球環境問題は21世紀における最大課題と言ってもよいだろう。現代科学技術はこの課題と密接不可分の関係にある。言うまでもなく、例えばこの1世紀余の日本近代化の推進は、現代科学技術に拠るところが極めて大きかった。</p> <p>しかし、現代科学技術の発展を無批判に容認できない事態も次々と発生してきた。原子爆弾、クルマ社会の矛盾、公害、そして更に発展した環境問題である。すなわち、科学技術の発展と飽くなき人間の欲求とが結びついて、20世紀後半以降における人間の活動量の飛躍的増大が、地球環境の許容限界を超え始めるにまで至っている。</p> <p>本授業においては、現代のこのような状況を踏まえ、いわゆる地球環境問題の諸現象及びその原因を認識し、またその問題解決のための方途を探求することによって、次代の科学技術を担うであろう学生諸君の、科学技術者としての、また市民としての環境倫理の涵養に努めたい。合言葉は、"Think globally, act locally"である。</p> <p>なお、授業形態はゼミ形式とし、毎回4名前後の学生に担当テーマについてプレゼンテーションをしてもらい、それを元にクラス全体で議論を進める形式を基本とする。</p>							
科目目標 (到達目標)	<p>学生が、下記の授業計画に示すテーマ毎にその現状及び原因を認識・理解し、解決策を模索することにより、<b>環境倫理</b>を身に付けることを目標とする。</p>							
教科書 器材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四訂 地球環境キーワード事典（地球環境研究会編、中央法規）</li> <li>・高専共通ビデオ教材：環境科学（メディア教育開発センター）他</li> </ul>							
評価の基準と 方法	<p>プレゼンテーション80%、授業への積極姿勢20%として評価する。60点以上を合格とする。</p>							
関連科目	<p>特になし</p>							
<b>授業計画</b>								
第1回	ガイダンス（プレゼンテーションのためのテーマ選択・グループ分けを含む）							
第2回	環境破壊と市民運動の歴史 / 地球サミットと「持続可能な開発」							
第3回	大気汚染と保全：地球環境問題 地球温暖化							
第4回	大気汚染と保全：地球環境問題 オゾン層の破壊、酸性雨							
第5回	水の汚濁と浄化：河川・湖沼等の汚染、地球環境問題 海洋汚染							
第6回	地球環境問題 森林の減少、砂漠化、生物の多様性の減少							
第7回	地球環境問題 開発途上国等の公害、有害廃棄物の越境移動 / 土壌汚染							
第8回	中間試験							
第9回	エネルギーシフト：化石燃料等から新エネルギー技術へ							
第10回	省エネ行動（エコアクション）							
第11回	清掃工場等見学							
第12回	廃棄物問題：ゴミの量・質と「処理・処分」型行政の限界							
第13回	大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会へ							
第14回	企業や環境NGOの取り組み							
第15回	学期末試験							
オフィス アワー	月曜日15時～16時30分							
授業アンケ ートへの対応	<p>プレゼンテーションのレベルが全体に低調なため、授業への集中度および疑問を解決する姿勢が乏しいようである。プレゼンテーションのレベルアップを図る必要がある。</p>							
備 考	<p>プレゼンテーションの1人当りの持ち時間は約15分とする。発表原稿は各自2部準備し、1部は発表前日までに教官に提出のこと。なお、紙資源節約の観点から、原則としてハンドアウトは配らない。発表に当たって要旨・図表等をOHPで提示したい学生は、教官への原稿提出時にその旨申し出ること。パワーポイントでの発表歓迎。</p>							

